9年度市功労者3氏が決定

市勢の発展に貢献し、その功績がきわめて顕著であると認められた個人や団体をたたえる大館市功労者表彰。9年度の功労者には3氏が決まりました。

各分野で多大な功績のあった3氏に、心から敬意を表します。

石垣輝光氏（小茂内・65歳）

昭和三十八年から十二年間農業委員会委員、同四十二年から現在まで農業協同組合の理事を務め、大館市の農業の振興と発展に尽力なされています。

また、昭和五十年から十二年間市議会議員に在職し、その間、産業経済常任委員長などを歴任、地方自治体の健全な財政運営などに努め、市勢発展に多大の貢献をなされました。

日景久吉氏（有浦1丁目・69歳）

昭和五十年から十二年間市議会議員に在職、この間、副議長や産業経済常任委員長などを歴任、各種公共施設の整備などを積極的に進めるなど、地方自治の進展と市の産業経済の発展に多大な貢献をされました。

現在は、大館ばやし保存会会長や観光協会会長などとして、郷土の伝統的資源の保存と産業文化の振興に大きく貢献なされています。

成田松太郎氏（弁天町・71歳）

昭和三十九年、有浦納税組合を設立し、組合長として良好な組合運営に手腕を発揮されています。設立以来九九%を越える高収納率をあげるなど、市勢発展の基礎となる納税思想の普及などに多大な貢献をなされました。

また、行政協力員、福祉委員などを歴任、現在も民生委員を務めるなど、市勢発展に寄与した功績には大きいものがあります。

市長リポート No. 133

新年度当初予算

今年度の当初予算の編成にあたっては、「行政改革」「情報公開」「地方分権」という三つのキーワードを想定し、これを念頭に置きながら作業を進めさせていただきました。

平成九年度の国の予算は、「財政構造改革元年」と位置付けられる緊縮型の予算であり、地方財政計画も昭和五十九年度以来の低い伸び率となっています。これはとりもなおさず、国と同様に地方にも財政運営の健全化を促すもので、地方財政にとっては引き続き厳しい状況が続いています。

また、景気動向にいま一つはっきりとした上向き傾向がうかがえず、現時点においては、高い水準での公共投資の維持が必要条件とされます。しかし、一般財源の根幹を占める市税や地方交付税などといった自主財源は依然として大きな伸びを見込むにはいたっておりません。

このような状況の下での予算編成は大変困難なものとなりましたが、苦しみながらもそれなりの形にまとまりをつけることができ、安堵しているところです。

具体的には五大プロジェクト、三大対策、新三大プロジェクトといった事業の推進を最優先としながら、学校改築、生活・生産関連基盤の整備に関する事業の推進に重点を置き、財源の運用に様々な工夫を織り込んだ点が今回の予算の特色である、といえるのではないでしょうか。

しかし、大切なことは予算を編成することではなく、実行することです。予算を無駄なく効率的に執行し、市民福祉の向上という所期の成果をあげていきたいと考えています。

小畑元